

平成29年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成30年 3月 30日

報告者	学科名	デザイン工学科	職名	准教授	氏名	河合 大介
研究課題	1960年代の赤瀬川原平の活動における〈匿名性〉に関する分析美学的研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	河合 大介	デザイン工学科准教授	美学・美術史		
	分担者					
研究実績の概要	<p>本研究は、①国内外で研究が盛んになりつつある戦後日本美術の研究の一翼を担うものであること、②近年、日本に導入されつつある英米の分析美学の理論に基づいたアプローチを用いることを特色とする。具体的な目的は、1960年代に美術家・評論家らの関心を集めた〈匿名性〉あるいは〈無名性〉という概念の果たした役割を、主に赤瀬川原平の活動を中心に明らかにし、また、その成果に基づいて、伝統的な〈作者-作品〉関係を問い直す分析美学の議論を練り上げ、発展させることである。</p> <p>1960年代の赤瀬川原平の活動にみられる〈匿名性〉への関心は、特に、高松次郎・中西夏之と結成したハイレッド・センターの活動において顕在化するのだが、本研究の過程において、それが赤瀬川にとって〈制作主体としての芸術家〉という観念への疑念へと向かっていったことがわかった。</p> <p>そこで、〈匿名性〉から派生してきた、作者と作品との関係性に対する赤瀬川の批判的思考についてより深く考察するために、本研究では、ハイレッド・センターの活動内で制作された《模型千円札》とそれをめぐる裁判に焦点を絞った。</p> <p>1965年に始まった、いわゆる「千円札裁判」は、赤瀬川が1963年に制作した片面を当時の千円札と同じ模様で印刷した4つのヴァージョンの作品が、通貨及証券模造取締法に違反するものとして起訴されたものである。起訴されるとすぐさま美術評論家や美術家たちによって「千円札事件懇談会」が結成され、彼らを中心として法廷戦略が練り上げられることになる。そこでの基本戦略は、〈千円札作品は芸術であり、表現の自由が保証されているかぎりにおいて、無罪である〉というものだった。しかし、印刷した千円札に芸術的な表現性が認められないなどの理由で、地裁、高裁ともに有罪の判決が下り、最高裁への上告も棄却されたことで、1970年に有罪が確定した。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>赤瀬川は、この裁判期間中に、多くの文章を発表するようになった。本研究では、これらの文章の読解と分析によって、次の2つの点に注目した。ひとつは、赤瀬川が千円札作品を説明する際に用いた〈模型〉という概念である。彼は千円札作品を《模型千円札》と名付け、模型は本物と偽物の対立図式の外部にあり、そのいずれでもないものとして、その対立図式を観察可能にする観点を提供するものだとした。この時期の赤瀬川の文章に表れている考えは、しばしば千円札事件懇談会からの影響が指摘されており、〈模型〉概念も例外ではないかのようにみなされていた。しかし、赤瀬川の文章を時系列に沿って読解するならば、1964年2月の「“資本主義リアリズム”論」において、すでに〈模型〉について基本的な枠組みが示されており、この概念に限って言えば、少なくとも裁判の起訴や千円札事件懇談会結成以前に赤瀬川自身によって発想されていたことがわかった。</p> <p>もうひとつ重要な点としては、この裁判を通じて、〈作者〉や〈オリジナリティ〉といった観念に対して、赤瀬川が疑いの目を向けるようになったことである。とりわけ、制作時の意図について事情聴取できりに聞かれたことで、そもそも作者が制作時に明確な意図を持っているわけではなく、制作された後に後付けで意図なるものをでっちあげるのだという考えに到るのである。このことは、ハイレッド・センター時代の〈匿名性〉が漠然と示していた個別性の否定をより先鋭化し、芸術における個性の重要性を批判することで、それは、近代の芸術観を覆すような1960年代の世界的な芸術の傾向のひとつの、そして独特なアプローチとして美術史上の意義があるといえる。</p> <p>1960年代の赤瀬川原平の活動を研究することによって、当時の日本の前衛美術が、単に海外の後追いではなく、また、海外との同時性や共通性において評価できるということでもなく、同じ反近代的前衛性を共有しながらも、独特のアプローチを行ったものとして位置づけることができる。</p> <p>本研究の成果は、成城美学美術史学会2017年度第1回例会（2017年9月15日、成城大学）において「《模型千円札》理論の形成主体に関する考察—赤瀬川原平自筆文献の分析を中心に」と題して研究発表を行い、それをもとに『成城美学美術史』第24号（2018年）に論文「《模型千円札》理論の形成主体に関する考察—赤瀬川原平著作の分析を中心に—」として発表した。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>河合大介「《模型千円札》理論の形成主体に関する考察—赤瀬川原平著作の分析を中心に—」、『成城美学美術史』第24号（2018年）、1-16.</p>